

# 「勇気づけのピアノレッスン」 No.19

＝心の荒れた生徒たちへの音楽指導＝

学研パブリッシングから出版された「愛のピアノレッスン」の中の手記「ある教室のささやかなサクセスストーリー」にも書かせていただいたことなのですが、私は音大卒業後、約10年間、公立の中学校教員をしていました。当時、私はいわゆる「荒れた学校」と言われる中学校に赴任しており、その中学校では「音楽」という教科は生徒にとって息抜きの場でした。私は当時まだ若かったこともあり、生徒には完全に舐められている存在。どんなに私が一生懸命授業をしていても、おしゃべりに花が咲き、私の授業など、ちっとも聞いてはもらえませんでした。生徒に歌を教える時は当然、ピアノ伴奏をしても声が出ないどころか、口すら開けてくれないような、悲惨な状況。今、思い出すだけでも、本当に情けなく辛い気持ちが蘇ってきます。でも、そんな状況を少しでも改善したくて、私はいろいろな工夫をしていました。

＝子どもたちは、本当は音楽が好き＝

例えば、こんな提案をしました。「授業中、積極的に歌ったり演奏できた時には、授業の最後にみんなが好きな曲を、私がピアノで弾いてあげるよ～」と。そうしたら、なんということでしょう！本当に生徒たちは、私のピアノを聴きたくて、(というより、当時流行っていた曲を聴きたかったのでしょう) 少しずつ歌ったり、演奏したり、話を聴いてくれるようになっていきました。私はこの頃、この生徒たちが、どうやったら音楽の授業にきちんと取り組んでくれるのかを、毎日必死で考えていたような気がします。「できるだけ叱らずにやる気にさせる。」それは未熟だった私にとって至難の技でした。褒めるところなんか、全くなかった生徒たち。でも、私は褒めるより「ありがとう！」の言葉をたくさん使いました。

＝そこにいてくれるだけで「ありがとう」＝

私は生徒たちに、いつも感謝の気持ちを伝えていました。教室を勝手に出て行く生徒もいる中、ちゃんと教室に残って授業を受けてくれた生徒たちに、「ありがとう」と言っていたのです。生徒は教室にいるのが当たり前と、私たちおとなは考えてしまいがちですが、本当はそうではありません。子どもたちは何気ない日常も、いつも勇気をもって行動しているんです。大げさに聞こえるかもしれませんが、生徒たちがそこにいてくれるだけで、「ありがとう」の気持ちがこみ上げてきて、自然に出てきた言葉だったのでした。のちに知ったアドラーが、同じことを言っていたと知った時、私はこの偶然に本当に驚きました。

＝「ありがとう」が何よりの勇気づけ＝

「ありがとう」と言われて嫌な気持ちになる子どもはひとりもいません。むしろ、おとなからたくさん「ありがとう」を言われて育った子どもは自然に「ありがとう」を言える人になると言えます。そして、感謝されて育った子どもは、他者に貢献する素晴らしさを学ぶことができます。まずはおとなから「ありがとう！」の言葉を、積極的に使ってみて欲しいと思うのです。

松井美香

元気と笑顔がトレードマーク「勇気づけの音楽家」・音楽指導者・教育カウンセラー「藤沢勇気づけの会」代表。東京音楽大学ピアノ専攻卒業。  
 <HP>～松井美香ピアノ教室～ <http://matsumika-piano.net/>  
 <Facebook> <https://www.facebook.com/mika.matsui.94>  
 <ブログ>「勇気づけ100の指導法で子どもと親の自己肯定感を育てる」 <http://ameblo.jp/makeeachangewithlove>  
 <メールマガジン無料配信中>「ピアノの先生のためのモチベーションアップ術」  
 ※ブログの登録欄にメールアドレスと氏名を書き込むと定期的に購読できます。

## かわいいグッズが新登場！ 新発売

Happy Lesson♪ シリーズ  
**ペンポーチ**  
 (ピンク/グリーン)  
**ラウンドポーチ**  
 (ピンク/グリーン)  
**マルチケース**  
 (ピンク/グリーン)



音楽と一緒にさらにハッピーな毎日を♪

※写真はイメージです。

【ペンポーチ】本体価格 各950円(税別) 【ラウンドポーチ】本体価格 各1,200円(税別) 【マルチケース】本体価格 各1,600円(税別)

サブライターのついでに！

芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋。秋といえば芸術が一番！  
 …ではなく、食欲の方が勝ってしまうのは私だけではないはず…。  
 松茸、銀杏、鮭、いくら～♪(な)

Twitter [@gakken\\_music](https://twitter.com/gakken_music) 日々のよしなしごとや最新情報をツイートしています！

Web版もあがる！  
 バックナンバーが閲覧できる！  
 Webならではの情報が満載！

# 学研 おんがく通信

9月号 2015年8月25日

Gakken

株式会社学研パブリッシング 音楽事業室  
 〒141-8412  
 東京都品川区西五反田2-11-8 16階  
 TEL: 03-6431-1220

学研 おんがく .net <http://gakken-publishing.jp/ongaku/> twitter @gakken\_music  
 電子書籍ストア 学研 BookBeyond <http://bookbeyond.jp/> Facebook gakken.music

今年の夏、初体験したものを紹介します。①流しそうめん。まず地元の仲間たちと流しそうめん台をDIY。竹を半分に切って節を取って洗って乾燥させ、細い竹を組んで脚にして、完成！そして試食。流れてくるそうめんは、いつもよりおいしく感じました♪②夏フェス。父とふたりでフジロックに行きました(最高の親孝行だと思っています)。大自然と音楽を全身で感じてきました。本当に気持ちよかったです！(の)

## ピアノの森から 改訂記念特別編 第16回

### “ピアノレパートリー曲集”としての進化

ちょうど1年前、《ピアノの森》シリーズの第4巻と第5巻を全面改訂し、《新訂ピアノの森》シリーズとして発刊いたしました。以前のものと比べて、使い勝手が若干異なるかもしれませんが、“いまの子どもたち”のために、やさしく、使いやすく…と、田丸信明先生ご自身の経験と実績に基づいた工夫がこらされていることは間違いありません。そして、この第4巻と第5巻の改訂を進めている頃から話題となっていたのが、第1巻、第2巻、第3巻はどうするの…？ということでした。比較的、発刊時と現在の状況との相違点を見出しやすかった第4巻と第5巻に比べて、第1巻から第3巻は、おかげさまで現在でも皆様にとっても愛され、多くの支持を得ている曲集です。ただ、第4巻と第5巻だけを《新訂ピアノの森》としておくわけにもいきません。《ピアノの森》をどうやって成長、進化させるのか!?…この難題を田丸先生と一緒に熟考したのですが、結局、シンプルな考え方に戻ってしまいました。これまでの使い勝手を変えることなく進化、成長のために“なにかを+(プラス)する”のが一番ではないか。そこで、先生からいただいた

アイデアをもとに、「レパートリーを広げるために、ちょっとした楽しい曲を付けよう！」ということに決まったのです！それが、今回、各巻に新たに2曲ずつ追加された〈連弾曲〉です。第1巻には田丸先生のオリジナル「マーチング・バンド」と、お馴染み「山の音楽家」、第2巻には馴染み深いメロディーの「聖者が町にやってくる」「ポルカ・ポルカ」、第3巻には“バッハのメヌエット”で知られるベッツォーロ「メヌエット ト長調」のオリジナルの連弾アレンジと変奏の連弾アレンジの2曲が収録されました。6曲とも、田丸信明先生による新アレンジ！生徒さんパートはメロディーが馴染み深いので、楽譜を読みこなさなくてもついていけますし、先生パートは、忙しい先生方のことをよく考え、パッと初見で弾けるのにおしゃれなハーモニーがちりばめられ、本当に手軽に連弾を楽しむことができるようになっています。まさに“田丸マジック”ともいべき連弾アレンジです。このたびの《新訂ピアノの森》第1巻、第2巻、第3巻によって、連弾やアンサンブルの楽しさにも改めて気づいていただければ、こんなに嬉しいことはありません。(か)

new バイエル初級程度  
**新訂 ピアノの森 第1巻**

■菊倍判/52頁/1C/本体価格 900円(税別)  
 ■ISBN: 978-4-05-154142-2

new バイエル中級程度  
**新訂 ピアノの森 第2巻**

■菊倍判/52頁/1C/本体価格 900円(税別)  
 ■ISBN: 978-4-05-154143-9

new バイエル上級程度  
**新訂 ピアノの森 第3巻**

■菊倍判/52頁/1C/本体価格 900円(税別)  
 ■ISBN: 978-4-05-154144-6

改訂しました！

新訂ピアノの森第1巻より  
 (連弾曲) マーチング・バンド

今日は何の日? ~番外編~

1841年9月8日

チェコの作曲家  
ドヴォルザーク誕生

Antonín Leopold Dvořák (1841~1904)



作: (め)

プロフィール

ボヘミア (現在のチェコ) で生まれ、16歳でプラハのオルガン学校に入学。苦学しながら音楽家をめざした。カルテットのヴァイオリン奏者や、プラハ国民歌劇場のヴァイオリン奏者を務め、スメタナの影響を受けつつ作曲活動を開始。ブラームスの知遇を得たことで作品が世に出る。40~50代のイギリス訪問と、当時「新世界」などと呼ばれていたアメリカに滞在したことによって創作力が爆発。新境地を切り開き、交響曲やオペラ、室内楽などの分野で世界的な名声を得た。その後帰国し、プラハ音楽院教授・院長として後進の育成に尽力したが、62歳で急死。

代表作

- ♪ 交響曲第9番 ホ短調 op.95 《新世界より》 (1894 作曲)
- ♪ 弦楽四重奏曲 第12番 ヘ長調 op.96 (1893 作曲)
- ♪ 8つのユモレスク op.101 (1894 作曲)
- ♪ チェロ協奏曲 口短調 op.104 (1894~95 作曲)

【キーワード①】ブラームス (8歳年上の先輩作曲家)

1875年から給付されたオーストリア政府の奨学金の審査員を務めたブラームスは、当時無名の作曲家であったドヴォルザークの作品に感動し、ベルリンの出版社を紹介するなど積極的に援助をした。それからというもの、ブラームスとドヴォルザークは生涯にわたって友情を築きあげた。(知名度が上がったかわりに、ブラームスの影響下から抜け出せないという苦しみもあったのだとか…)

【キーワード②】鉄道オタク

趣味は、蒸気機関車。眺めるのも好き、模型を作るのも好き。プラハに住んでいた頃は、作曲に疲れると(飽きたら?) 駅に出かけ、機関車を眺め気分転換をしていたそう。代表作である「8つのユモレスク op.101」の構想は、機関車に揺られている時に思いついたといわれている。

歴史から楽しむ、オペラ!

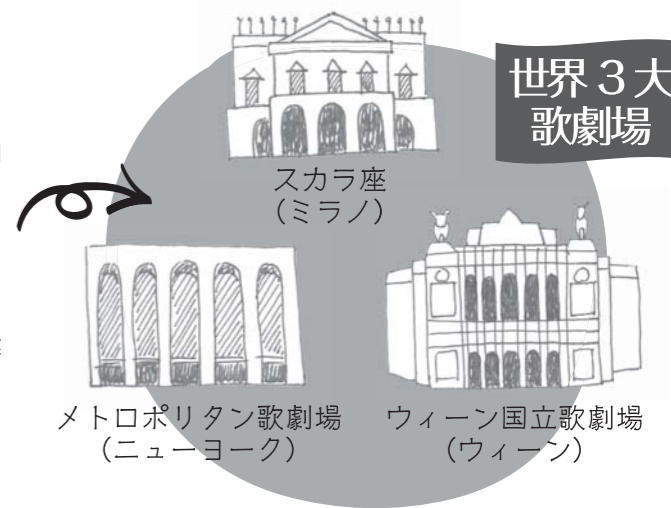


オペラ好きの方はすでにご存知でしょうが、英国ロイヤル・オペラ公演を皮切りに、ウィーン・フォルクスオーパー、ウィーン国立歌劇場と、世界一流の歌劇場の来日公演が決まっています。演目以上に歌劇場の歴史や建築物そのものに興味がある担当(お)は、今回来日の歌劇場のひとつ、ウィーン国立歌劇場について調べてみました。オペラ鑑賞の参考にいただければと思います。

世界3大歌劇場のひとつウィーン国立歌劇場は、1869年5月25日、フランツ・ヨーゼフ皇帝とエリーザベト皇妃隣席のもと、モーツァルトの《ドン・ジョヴァンニ》を演目に、華々しく歴史の幕を開けました。今日に至る約150年間、1945年の戦禍を経ながら(建物の破壊、スタッフやアーティストの追放や暗殺など…)、独自のプロダクションを形成してきました。マーラーやR.シュトラウス、ベーム、カラヤン、マゼールら、錚々たる面々が歴代の総監督として名を連ねています。小澤征爾の音楽監督就任は記憶に新しいところ(2002~2010年)。また、彼の後任のウエルザー=メストが任期途中(2014年)で音楽監督を辞任するというニュースは大きな話題になりました(今回の公演、メストの予定ですがどうなるのでしょうか…)

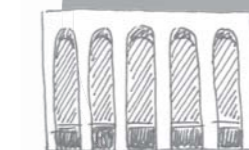
さて、建築物です。建築はネオルネサンス様式によるもの。正面部分は戦禍を免れた開場当時のオリジナルだそうです。2,284人収容の客席は6層から成る馬蹄型で、象牙色を貴重とした壁に伝統的な金と真紅で内装がされていて、天井のシャンデリアの落ち着いた明かりが会場を包み込みます(シャンデリアの大きさはなんと直径7m、高さ5m!! 内臓電球は1,100個!). このほか、建物内部を飾る彫刻や絵画も素晴らしく、訪れた人々を圧倒します。シーズンは9月から翌年の6月末頃まで。ほぼ毎晩、オペラやバレエが上演されています。

7月から8月はシーズンオフですが、今年の夏は新作映画『ミッション: インポッシブル/ローグ・ネイション』のワールドプレミアがウィーン国立歌劇場で開催されました! というのも劇中にウィーン国立歌劇場が登場するからです。商業映画の上映は初! 世界中から5,000人以上ものファンが集まり大騒ぎ。まさに歴史に残る出来事です。(お)



世界3大歌劇場

スカラ座 (ミラノ)



メトロポリタン歌劇場 (ニューヨーク)



ウィーン国立歌劇場 (ウィーン)

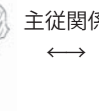
《ドン・ジョヴァンニ》あらずじ  
根っからの女たらしドン・ジョヴァンニは忍び込んだ娘(ドンナ・アンナ)の部屋で騎士長をして父親に見つかり刺殺してしまう。アンナは婚約者に犯人を探して復讐したいと求めた。…が、ジョヴァンニに犯人探しの相談をするうちに彼が犯人だと気づく。己の悪事がばれてしまったジョヴァンニと従者レポレロは農民たちと殺されそうになりながら逃げ回る。逃げ先墓地で騎士長の石像が目前に現れた。口をきいた騎士長の石像に悔い改めるように迫るが受け入れなかったため、地獄へ落ちるというお話。



騎士長の娘  
ドンナ・アンナ



希代の女たらし  
ドン・ジョヴァンニ



主従関係  
従者  
レポレロ

参考書籍: オペラ・ギャラリー 50 (学研パブリッシング)

今月のあかね先生

「丸子あかね先生ってどんなひと?」

~あかね先生とピアノのおはなし その②~



こんにちは! 7月号に引き続き、担当者(ゆ)が丸子あかね先生の素顔に迫ります。 【丸】: 丸子あかね先生 【ゆ】: 担当者

【ゆ】「先生の高校時代について教えてください。やはり音楽高校に進学なさったのですか?」

【丸】「いえ、普通の高校でした。」

【ゆ】「その頃から将来のことは考えていらしたのですか?」

【丸】「小学校の時は、すでに卒業文集に将来の夢を“ピアノの先生”と書いていました。それも、小さな子どもに教える先生。でも、その高校の卒業生にアナウンサーがいたんですね。それで当時はアナウンサーもいいなあなんて思っていました。」

【ゆ】「おお…とっても意外です!」

【丸】「うふふ(笑)」

【ゆ】「それでもピアノの先生になられたということは、やはり根本にはピアノへの強い想いがあったのでしょうか。」

【丸】「進学校だったので、みんな勉強に力を入れていました。その中で『私はやっぱりピアノだ!』って感じたんです。子どもが好きで、家でピアノを教えたいという想いが強かった。」

【ゆ】「音楽とは離れた環境に身を置くことで実感されたのですか。」

【丸】「はい。今ではお医者さんも良かったなあと思います。お医者さんが一人ひとりの症状に合わせてお薬を出すことと、ピアノの先生が生徒の苦手なことに合わせて練習法を提案するのが似ている感じがするんですね。」

【ゆ】「なるほど! 意外な組み合わせですが、確かに似ていますね。ところで先生、高校時代に部活動はされていましたか?」

【丸】「はい、マーチングバンドに。」

【ゆ】「これまた意外な! 勝手な想像ですが、吹奏楽部かと思っていました(笑) テナーサクスのイメージです。」

【丸】「いやいや~! マーチングバンドでクォード\*をやりたかったんですけど、実際は違う楽器を担当しました。」

\*クォード: タムが4個付いた楽器のこと。

さて、あかね先生はマーチングバンドで何の楽器を担当されていたのでしょうか。答えは次回のコーナーにて♪ おたのしみに!

\*今月のセミナースケジュール\*

9/8 (火): [福岡県/福岡市] 日本楽芸社 『子どもが飽きないリズムのレッスン (リズム・セミナー/導入編)』

9/9 (水): [福岡県/久留米市] 木下楽器店 『「譜読み」の基本を身に付けるレッスン』

9/17 (木): [兵庫県/西宮市] 新響楽器 甲子園店 『子どもが飽きないリズムのレッスン (リズム・セミナー/導入編)』

9/18 (金): [滋賀県/大津市] 河合楽器製作所 大津店 『ピアノ・テクニクのレッスン法 ~初歩からすてきな音をならしましょう~ (テクニク・セミナー/導入編)』



つむりの練習手帳

なんだか最近急に暑くなってきちゃって、つむりが妙にピアノの部屋へ行くようになりました。いっつも、ちょっと練習している音がした後で、ず——と音が聴こえなくなっちゃうから、ある日のぞきに行ったら、ピアノの部屋に置いてあるソファベッドで昼寝中でした。確かに、あの部屋は家じゃいちばん涼しいし。(トホホお兄)

つむり現在の楽譜  
☆ハノン・ピアノ教本  
☆ル・クーベ  
ピアノのアルフアベット

編集部チョイスおすすめの1曲

おもちゃのダンス (コルダ)  
(原題: 麦わら切りの歌)

レベル: ★★☆☆

楽しくて、ゆかいな連弾曲です。アウフタクトのリズム、旋律のハーモニー、強弱のメリハリなど、パートナーと息を合わせて弾くことを学習できる曲です。



掲載楽譜→  
DUO (デュオ) ピアノ連弾名曲集 2